

News Letter

Vol. 08

2023年12月 発行

島根大学

島根県立大学

松江工業高等専門学校

米子工業高等専門学校

キャリアアップ支援セミナーを開催しました

平成5年9月1日(金)に、ハーゲンダッツ ジャパン株式会社代表取締役社長 平井 弓子氏を講師にお迎えし、キャリアアップ支援セミナー「キャリアを振り返って」を開催いたしました。当日は、ハイブリット方式(対面+Web)で開催し、本学職員だけでなく、SAN'INダイバーシティ推進ネットワークの共同実施機関・協力機関を始め、地域の皆様など100名余りの参加者がありました。

平井社長からはご自身の経歴を紐解いて、SPSしまねグループとして島根県立美術館の指定管理者となられた島根県との関係(縁)についてもご紹介いただきました。また、どんな立場でどのようなキャリア形成をされたか、管理職の魅力として「見える世界が広がる」「自分で決められることが多くなる」「組織として結果を出せる」など教えていただきました。



キャリアアップ支援セミナー
Career Advancement Support Seminar

9月1日(金) 15:30~17:00
会場: 島根大学松江キャンパス大学ホール(ハイブリット方式: Zoom併用)

講師: 平井 弓子氏
1980年10月10日生まれ。2005年4月ハーゲンダッツ入社。入社後、マーケティング、営業、企画、開発、生産、物流、人事、インバウンド推進等の各部門で、幅広い分野で活躍。2022年10月、代表取締役社長に就任。2023年8月、島根県立美術館の指定管理者に就任。

参加申込はこちらから
https://forms.office.com/r/8D551PwYK (締切: 9月24日17:00まで)
TEL: 0855-35-4018 Mail: kyodo-sankaku@edu.shimane-u.ac.jp

「LGBT当事者と考える みんなが生きやすい島根」を開催しました

令和5年6月28日(水) 昼休みの時間帯に、第103回拡大版さぼっとカフェ(オンラインイベント)「LGBT当事者と考える みんなが生きやすい島根」を開催し、講師として佐藤 みどり氏(LGBT理解啓発講師)をお招きしました。当日は、島根大学、松江工業高等専門学校、島根県及び市町村、地元企業や県内外の複数の学校の他、学生や一般の方68名に参加いただき関心の大きさを知りました。

はじめに、講師自身の生い立ち、中高校生の時期に悩んでおられたこと、カミングアウトまでの時期やそれに対する周囲の反応などお話しいただきました。また統計的にはLGBT当事者は11人に1人の割合(血液型がAB型や左利きの割合と同じ)で存在していると言われてはいますが、実際に社会で出会う当事者は非常に少なく、暮らしにくい人が多い事、当事者は自分が異常なのではと悩み、相談できずに自殺する者の割合が高い事などLGBTの実態について報告いただきました。

佐藤氏からは、島根県は令和5年10月にパートナーシップ宣言制度を導入することが決まり、LGBTについて県内に理解して

いただけるチャンスだと考え、11月25日には松江市内でレインボーパレードを行うことも紹介いただきました。今現在も「島根県に同性系の人はいるのか?」「島根でもLGBTの人がいるんだ」という言葉を聞き、島根にもLGBTだけでなくいろいろな人がいることを当たり前にしていきたい、そして『どんな人間でも生きやすい未来を子どもたちに作って生きたい』と宣言がありました。



2023年10月
県全体で導入決定!

拡大版第103回さぼっとカフェ
LGBT当事者と考える みんなが生きやすい島根
講師: LGBT理解啓発講師 佐藤 みどり氏
6.28(水) 12:00-13:00
オンラインイベント / Zoom / 無料
SAN'INダイバーシティ推進ネットワーク発起に所属する 教職員及び学生、その他企業に関心がある一般の方

01 LGBTのリアル 02 誰でもできる シンプルな 問題解決方法 03 どうする? これからの島根

申込: https://forms.office.com/r/8D551PwYK (締切: 9月24日17:00まで)
※平日の昼休みに開催。昼食を食べながらの参加OK!
※申込者に限り、先着し配信URLを送付。気になる方は申込を!

2023年度女性研究リーダー育成支援事業 (共同研究型)

連携機関間の共同研究を促進し、女性研究者の研究力の向上を支援するため、連携機関に所属する女性研究者が研究リーダーとなる連携機関間の共同研究に対し、研究費を助成しています。今年度採択されたのは下記研究課題です。

◎：研究代表者

島根大学

- 自己修復性をもつ抗菌性超分子マイクロファイバーの開発
◎王 傲寒〔総合理工学部(助教)〕、山口 勲〔総合理工学部(教授)〕、櫻間 由幸〔米子工業高等専門学校総合工学科(教授)〕
- 若年女性アスリートにおけるアスリートの三徴の実態調査、及び下腿最大周囲径との関連
◎杉原 志伸〔松江保健管理センター(准教授)〕、河野 美江〔松江保健管理センター(教授)〕、小原 侑己〔松江工業高等専門学校人文科学科(助教)〕

●インクルージョンを形成する教育対話研究

- ◎香川 奈緒美〔教育学部(准教授)〕、深見 俊崇〔教育学部(教授)〕、高橋 泰道〔島根県立大学人間文化学部(教授)〕

米子工業高等専門学校

- AIR475における現代美術作家との共同制作によるSTEAM教育について2
◎高増 佳子〔総合工学科建築デザイン部門(教授)〕、藤田 英樹〔島根大学教育学部(教授)〕

SAN'INご縁ネットミーティング

分野を超えた研究ネットワーク、研究アイデアのひらめきのきっかけ、新たな共同研究などを生み出す「場」作りを目的として月に1回程度開催しています。ご縁ネットミーティングでは、「メンバーが自身の研究を中心に話題提供し、参加者でディスカッションする」学びながら交流を深める企画を実施しています。

次世代ものづくりに向けた取り組み：物理学と機械学習の融合によるアモルファス合金の研究

- 【日時】令和5年4月19日(水) 12:10~13:00
- 【講師】島根大学次世代たたら協創センター 平山尚美准教授
- 【参加者】15名

近年、経験と勘と根性に頼る材料開発を脱却し、AI(人工知能)を活用した数値計算に基づくものづくりが注目されています。これに向けた取り組みの例として、NEXTAで取り組んでいるアモルファス合金の研究を紹介しました。



刊行物紹介

※刊行物について、入手をご希望の方はダイバーシティ推進室までお問い合わせください。

SAN'INダイバーシティ推進ネットワーク年次報告書

令和4年4月1日から令和5年3月31日に行った、SAN'INダイバーシティ推進ネットワークの活動をまとめた年次報告書を作成しました。SAN'INダイバーシティ推進ネットワークホームページ/刊行物・資料/データ資料・報告書に掲載していますのでご覧ください。

(掲載場所)
https://diversity.shimane-u.ac.jp/_files/00323918/1102.pdf



戦後日本の生活改善普及事業に関する研究

- 【日時】令和5年7月25日(火) 12:10~13:00
- 【講師】島根大学生物資源科学部 中間由紀子助教
- 【参加者】22名

戦後日本の農村では、生活水準の向上と「考える農民」の育成を目的として「生活改善普及事業」が実施されます。事業の実施により、農村の生活や女性の置かれていた境遇がどのように変化したのかについて紹介しました。

3. 戦後日本の生活改善普及事業

研究結果①

<農林省の生活改善普及事業の基本方針>

- ①農家生活の改善・合理化
衣食住等の知識・技術の普及⇒生活水準の向上
 - ②「考える農民」を育成し、農村の民主化に寄与する。
⇒事業の受入組織として、自主的な生活改善グループを育成する。
- *婦人会の利用×(事業の対極にある組織)



最近の地方創生の動向

- 【日時】令和5年10月26日(木) 12:10~13:00
- 【講師】島根大学材料エネルギー学部 清水希容子教授
- 【参加者】16名

少子高齢化が進むなか、地方創生の推進に向けた施策が注目されています。その歴史的意義や、地方創生をめぐる現状と課題、各地域の取組事例を紹介しました。



「ダイバーシティ研究環境実現イニシアティブ（調査分析）」に選定

令和5年度科学技術人材育成費補助事業「ダイバーシティ研究環境実現イニシアティブ（調査分析）」（代表校：国立大学法人広島大学）に選定されました。本学は共同実施機関として令和5年度～6年度、広島大学とともに海外の大学及び研究機関における優れた取組について、多様性（Diversity）、公正さ（Equity）、包摂性（Inclusion）を重視した研究環境づくりの現状と課題を調査分析し、日本での実装可能性を検討の上、「地方大学における理工系女性研究者が働きやすく働きがいのある研究環境づくりのための政策提言書（仮）」を策定する予定です。

しまね大交流会に参加

令和5年11月5日（日）に行われた「しまね大交流会」において、ダイバーシティ推進室からは「女性研究者の裾野拡大SUN'IN Girlsが進める理系進学」のブース発表を行いました。

当日は、130名の方がブースを訪れてくださり、理系の女子大学院生から「研究内容」「大学院に進んだ理由」「大学院での生活」「卒業後の進路」などについて発表しました。訪れた高校生からは「理系は難しくないか」「入試について」、大学生からは「院か就職か悩んでいる」「研究室での生活は」などの質問があり大学院生から丁寧に回答をしていました。わが国で理系への進学や、研究者を目指す女性はまだまだ少ないのが現状ですが、このような取り組みを続け、リケジョを増やしていきたいと思えます。



女性研究者リーダー育成支援事業（プロジェクト創出型）

本学では毎年、地域に根差しつつ国際的に活躍できる女性研究リーダーを持続的に育成し輩出する仕組みを構築し、地域の発展に貢献することを目指すため、女性研究者による新たな研究プロジェクトの立ち上げを支援することで、学際力やプロジェクトマネジメント力を備えた女性研究者育成を目的にプロジェクト創出型支援を行っています。今年度は5件の女性研究者を支援しています。

留学生へダイバーシティに関する授業

令和5年6月6日～16日米国ミシガン州立大学より10名の留学生が来日しました。本年度の研究テーマの1つに「ダイバーシティ」を取り上げていることから、6月7日に初等教育実践基礎Eの授業に合わせ河野 美江副学長（ダイバーシティ推進担当）を講師に、これまでに発行した冊子（ロールモデル集、性の多様性に関する基本方針と対応ガイドブック）などを示し、本学のダイバーシティに関わる取組や目指している方向性を話しました。授業後半では、日本と米国での学童やベビーシッターの違いや、島根大学の副学長の役目など活発に意見交換がされました。



異業種交流会を開催

令和5年9月1日（金）のキャリアアップ支援セミナー終了後、初めて「異業種交流会」を開催しました。キャリアアップ支援セミナー講師の平井 弓子氏（ハーゲンダッツ ジャパン株式会社代表取締役社長）をはじめ、地元企業や島根県、松江市の方などに参加いただきました。

参加者同士が名刺交換をしながら、女性活躍推進についての情報交換を行いました。

短い時間ではありましたが、参加された方ご自身の職場での役割や職場の雰囲気、ワークライフバランスなど、ざっくばらんに話ができて大変参考となる情報交換ができました。



研究サポーター制度

育児や介護などによって研究時間の確保が困難な研究者に対して、大学が任用した研究サポーターが研究の補助業務を行う、研究サポーター制度を実施しています。令和5年度は15名（男女不問）の教員が利用しています。

島根大学女性教員メンタープログラム

新任（着任を5年未満）女性教員が、一定の職務経験を持つ教員との交流を通じて大学教員として成長していくことを支援する、島根大学女性教員メンタープログラムを令和3年度から開始しています。令和5年度には現在1名の女性教員がこのプログラム活用しています。



看護管理コンソーシアム
しまねと連携し、下記2
件を実施しました。

ナラティブ検討研修会

看護管理者が自らの看護管理の実践場面を振り返り、その中で気づきを実践知として共有していくことを目的とし、「ナラティブ検討研修会」を開催しました。令和5年7月21日に第1回、10月27日に第2回を開催し、延べ11名の参加がありました。検討会では実際の事例を用いながらナラティブ検討を行いました。新人看護師の育成や病棟マネジメントなどの事例から見えてきた実践知を共有するとともに、それぞれが抱く日頃の悩みを語り合いました。

第2回看護管理コンソーシアムしまね講演会

看護管理者の学習機会として年1回のオンライン講演会を開催しており、今年度も勝原裕美子先生を講師に迎え、「『組織で生きる』管理者の役割を生きる中での葛藤とエンパワー」をテーマに11月7日（火）14:00-15:00に実施しました。県内病院の7施設から、副看護部長から副院長、看護局長・看護部長まで約50名の参加者がありました。アンケートから満足度・有用性はともに高く、「日頃思っていることが、解かれていく内容だった。」「多様な価値観の中でどうしたら風通し良く安心できる職場環境を整えていけるのが難しいが、今回の講演会はとても参考になった」などの感想が寄せられました。参加者にとって、管理者としての在り方の探求に結び付いた講演会となったようでした。



独立行政法人国立高等専門学校機構
松江工業高等専門学校
National Institute of Technology, Matsue College

校長と女性教職員の懇談会を開催

令和5年10月30日（月）、校長と女性教職員の懇談会を開催しました。

この懇談会は、より良い職場環境整備のために、校長と女性教職員との懇談会を通じて、女性教職員を取り巻く現状を把握することを目的として、平成26年度から実施しています。

今年度は9名の参加があり、業務改善に向けた取組や教職員間のコミュニケーションについてなど、日頃感じていることについて意見交換を行いました。



職業としての「高専教員」を紹介する講演会を開催

令和5年11月16日（木）、本校学生を対象に、職業としての「高専教員」を紹介する講演会を開催しました。この講演会は、「研究職」を志す学生に高専教員という職業に興味を持ってもらい、博士課程への進学を含めたキャリア形成の一助とするために開催したものです。

講演会では、環境・建設工学科周藤将司准教授から、自身が研究者・教育者を選んだ動機、大学院での学生生活の様子、現在の教育・研究活動等についての講演を、人文科学科矢野千紘講師からは、「女性研究者・技術者講演会」と題して、高専に着任して感じたこと、ワークライフバランス等についての講演をいただきました。

また、人事・労務係担当者から高専教員の給与や休暇等の制度に関する説明も行われました。

当日は6名の参加者があり、「給与など話しにくいことも聞けて良かった。」「高専教員の実態をよく知らなかったので、この機会に知ることができて良かったと思う。将来の視野の一つとして考えていきたい。」といった感想が聞かれました。



教員職体験インターンシップを実施

令和5年11月16日～17日に教員職体験インターンシップを開催し、参加希望者1名の受入れを行いました（受入学科：電子制御工学科及び人文科学科）。

本インターンシップは、大学院の学生等を対象として、高等専門学校教育職への理解を深めていただくとともに、高等教育機関における教員の男女比率の均衡化を図ることを目的として令和4年度から実施しています。

インターンシップ期間中は、授業や専攻科生のポスター発表の見学、学生に対する講演、教員との意見交換などが行われました。



独立行政法人 国立高等専門学校機構
米子工業高等専門学校
National Institute of Technology (KOSEN), Yonago College

米子高専「イクボス・ファミボス宣言」

米子高専は、令和2年10月に鳥取県男女共同参画推進企業として鳥取県から認定されていますが、この度、令和5年9月に米子高専「イクボス・ファミボス宣言」を行いました。これにより、時間外勤務の削減、休暇や両立支援制度等の積極活用、柔軟な働き方への理解促進など、教職員の仕事・地域連携と家庭生活との両立を応援することを宣言し、校内で周知、実践することとなりました。



女子学生による留学報告会を開催しました

令和5年11月9日、トビタテ！留学JAPAN高校生等（第9期）採用学生による留学報告会を1・3年生全員（約400名）対象に開催しました。採用学生ら3名中の1名は機械システムコースを専攻し、航空機産業への就職を目指している3年の女子学生です。この学生は留学先のフランスで女性の雇用やジェンダー平等についてのヒアリングやアンケートを行いました。報告を聞いた出席者からは、女性がしっかりと仕事をもちたいという話に対して「フランス女性の意識は高い」などの感想がありました。

